

## バリゴヤの頭 (大峰)

【日程】2014年9月14日

【エリア】大峰

【形態】バリエーション

【メンバー】片山、小谷、松宮

【報告】松宮



### 《ルート／タイム》

9月14日 大川口 (7:30) ～バリゴヤの頭 (12:00～12:30) ～モジキ谷下山口 (17:30)

### 《報告》

今回は大川口からバリゴヤの頭を目指しモジキ谷へと下山するルートを取りました。ルート上にはテープも見られますが全体的にテープの数が少なくルート取りが難しいところはテープが無いので読図技術は必須となります。装備はルートさえ間違わなければ一般登山装備で対応できますが、藪や落石に注意する箇所が多いのでヘルメットは必須でしょう。それと今回の山行では20m～30mのザイルを2本装備しました。使用箇所は登りの残置ロープがあった個所と、下山時のルート取り失敗の懸垂に使用しただけですがお守り代わりに装備をおすすめします。



9月14日

観音峰駐車場で13日夜に集合し前泊宴会を楽しんでバリゴヤを目指しました。

当日は昨夜の宴会が盛り上がりすぎて出発前に早くも一人脱落となり3名で2台の車で出発。

1台を下山口となるモジキ谷へデポして大川口へ向かいます。

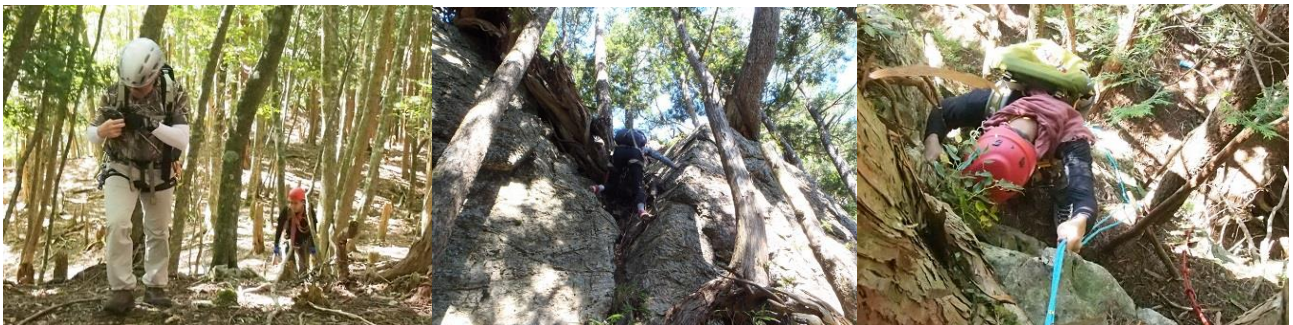
7:30に準備が整い大川口から国道を少し戻った地点から入山しました。

ここから尾根までいきなりの急登が二日酔いの体に応えます・・・

俺も出発前に脱落しといたらよかったと心が折れかけたので早々に先頭を小谷さんへと譲りシンガリを務め高度を稼いでいきます。



尾根に出たあとも急登は続き、ここからは全身で乗り越えるようなところも出て更に高度を稼いで行きます。ルート全般ロープを出すようなところはありませんが、一か所だけ残置ロープが掛かっていた個所で念のためロープを出しました。





ここまで順調に進む我々に本日第一の試練が襲い掛かります。

ルート図注記:1 の小さなピークで左側を進むルートを取りましたが地形図からは想像できない断崖に行く手を阻まれ立ち往生。どうにかピークを降りるルートがないか探りますが生い茂る草木で先が見通せないので懸垂下降後で行き詰まることを考慮し、一旦ピーク手前まで戻って右側を進むルートを探することにしました。右側のルートは下れそうな雰囲気だったのでピークから右側を下降しトラバースでピークを抜けました。このトラバースも緊張する箇所だったので正解はピーク中央だったのかもしれませんが。そんなこんなで緊張のなかバリゴヤの手前コルに到着したときはホッとしました。



このコルからの取りつきではテープを発見したのでバリゴヤの頭へはすんなりと 12:00 に到着しました。小谷さんの話では 50 年程前の山上の記録に奈良山岳会の先輩方が登頂した際に、立ち木にナイフで記念を記したと記述があったということなので探してみましたが見つかりませんでした。しかし 50 年前の大先輩も踏んだ同じ地に居ることに歴史を感じました。

食事を取りながらのミーティングで下山時もルートをロストするだろうという意見が出たので母公堂へ下るエスケープルートを取るかの選択に迫られます。しかし下山時の尾根さえつかんでしまえば下山は容易いだろうと判断し 12:30 にバリゴヤを出発しモジキ谷を目指します。しかしこの判断が後の本日第二の試練を呼ぶことになるとはこの時は誰も知る由もなかったのであった・・・





この後の苦労を想像すらしてない良い笑顔で記念撮影（笑）

下山ルートは、ルート図：注記2で強力の頭へ登りそこから北側尾根を目指すルートを選び強力の頭手前のコルの左側から強力の頭へと回り込むルートへと入ります。

下降は困難を極めました・・・というのもこのルートを選んだことにより取りつくはずの尾根までに谷を挟んでしまい崖に行く手を阻まれたからです。ここでは懸垂で下降し下の様子を伺って見ましたが岩壁が続いていたので、ここから下るのは無理と判断し一旦、強力の頭前のコルまで登り返すことにし再度ルートを探すこととしました。

このルートロストにより大幅に時間が取られだんだんと時間的余裕も無くなってきます。

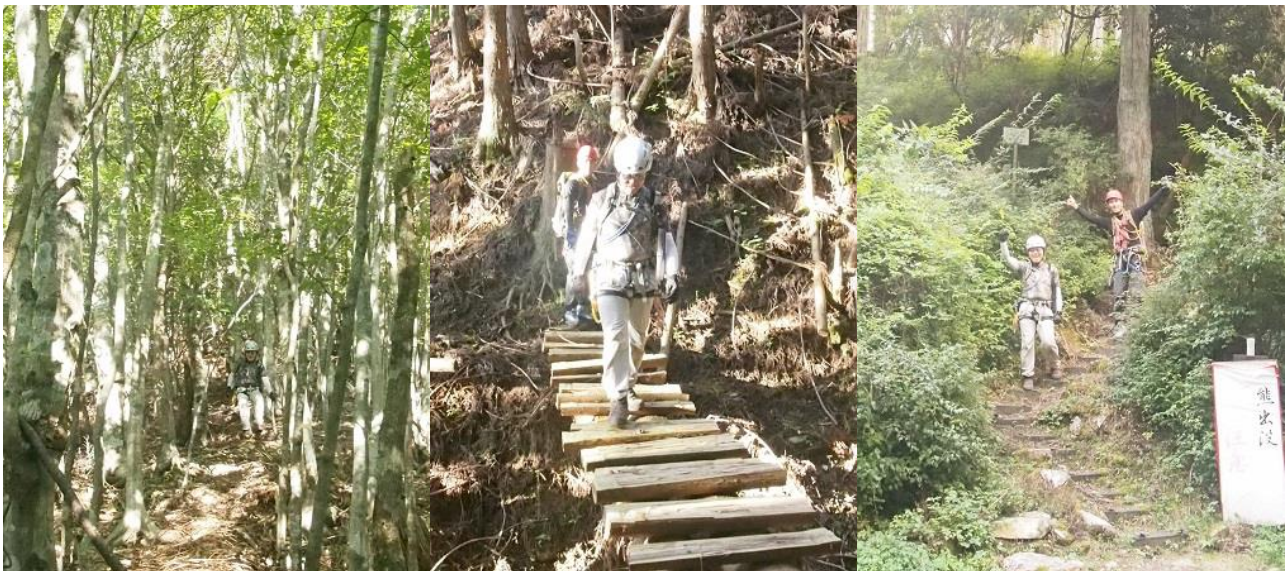
我々がルートロストしたこの左側ルートを取った理由は先が見通せる安心感からだったと反省します。コルに戻る前のミーティングで地形図を良く見てみると左側のルートは尾根に取りつくまでに谷や断崖があることは容易に判断できました。しかしあの時は地形図よりもその場の下りやすそうな雰囲気引張られ行き詰まり時間を大幅にロスしてしまいました。コルに戻ってからも右側のルートは木が生い茂り、先がまったく見通せない状況と直前のルートロストによる消耗で右側のルートを選択するまでかなり時間が掛かりました。結果的には右側のルートで強力の頭をトラバースしようやく尾根に出ることができましたが状況判断はもちろん決断する難しさを痛感しました。

そんなこんなで尾根にとりついたときは15:30くらいだったと思います。ぶっちゃけ下山リミットぎりぎりだったのでメンバー全員ビバークも視野に入っていた時間だったと思います。尾根にあたってテープを見つけたときの喜びたるや全員感動もんでした（笑）





尾根に乗ってからは急斜面や落石注意な場所がありましたがそれほど時間もかからず 17:30 にモジキ谷下山口へ到着しました。



久しぶりの山行でしたのでリハビリ山行や〜と思って行きましたが結果タフな山行となりました。しかしこれぞ山登り！を、ちょこっと味え、かつベテランの皆さんに頼れない状況での山行となったため、メンバー全員で力で乗り越えた山行に大満足でした。